

## HW I P企画運営委員会 教務報告

### ● 1年

- HW セミナー：春の合宿（3日） + ラボローテ（1日 x 3）
  - 合宿終了4月13-15。超域、生体、東大、京大、早稲田も参加。学生企画、修了生 세미나。
  - ローテーション実施中。
- 基礎論 I・II：特任座学（前期・後期、各金曜1コマ x 15）基礎ライティング含む
  - 2018年度は、これまでの組み合わせで「座学→学生プレゼン→GW」。
- 領域基礎研究：ラボでの専門研究 + イノベーション入門
  - イノベ入門：Clic 産学講義 + 企業訪問 + イノベーションアプリケーション（座学2日 + 企業訪問1日）
  - 7/27 座学→企業訪問→9月ごろアイデアソン。※全学年アイデアソンにして企業へ
- 創出論：オムニバス講義（後期 金曜2コマ x 8）
  - 2018年度も同様（日程調整中）。

### ● 2年

- 融合領域研究：ラボでの専門研究 + アウトリーチ
  - アウトリーチ：未来館座学と学内 + 市内駅構内/産学 OACIS での実践（座学1日 + 実践2日）
  - 7/3 未来館座学終了→学内学部生向け&エキスポ/オアシス

### ● 3年以降

- プロジェクト研究：融合研究に属する（グラントでPIを行うとPI研究の単位も追加）
  - 3年次。提案書(5月末)→教員認定(10月)→書類(11月)→面接(RQE,1月)。
- 実践演習：参画企業による講義
  - 3年次。産連担当（マハズーン先生）。1年入門とプレゼンを合同実施計画。
- インターン・HW 価値創造：国内3ヶ月以上、海外1.5ヶ月以上、ただし通勤期間は2/3でも良い。
  - 4/27HW 説明会&7/6 参画企業説明会(マハズーン先生)。海外個人斡旋(津田先生)。

### ● 審査など

- 学生アドバイザー：8月ごろメンタリング、11月ごろ評価。 →企業アドバイザーと面談
- GPI スキル診断：毎年秋に実施 →増澤先生・首藤先生担当
- Pre-QE：1年次12月 →選抜委員会担当
- R-QE：3年次1月（最終試験と同時） →2018年度も同様（1/22 火を候補）。
- 最終試験：公聴会は5年次1月 →同様（1/22 火を候補）。最終学年に説明会&個人面談。

### ● その他

- 学生企画： →今月は無し。
- HW 教員セミナー： →今月は無し。
- 国際交流： →今月は無し。
- 指導教員へのお願い： →補足資料を配布。

### ※ 講義の流れ

**研究**：領域基礎（1年）→融合領域（2年）→プロジェクト研究（3年）→PI研究（4年）

**産業**：入門（1前）→創出論（1後）→アウトリーチ（2年）→実践演習（3年）・インターン（3年）

※ 各カリキュラム説明やイベント詳細は HP 右上の履修生専用ページにしています。

<http://www.humanware.osaka-u.ac.jp/student-only/>

## ヒューマンウェア(HW)履修の手引き 指導教員用補足資料

- ・まず、HWは他のリーディングよりも指導教員の皆様に頼る部分が多いと思います。ご協力誠にありがとうございます。
- ・本資料は、理解のための補足資料としてご参照ください。次頁以降には学生用の履修科目ガイドを添付しています。
- ・特に決まりはございませんが、「ラボ活動：その他HW活動＝8：2」ぐらいを想定してご指導いただければ幸いです。

- 必要な情報の入手方法（以下全ての項目の学生用詳細が記載されています。次の入力が必要です：ToKui602t）

- 内部ページ参照 <http://www.humanware.osaka-u.ac.jp/student-only/>
  - ✧ 年度イベントリスト（内部ページからリンク有） [http://www.humanware.osaka-u.ac.jp/hwip\\_calendar/](http://www.humanware.osaka-u.ac.jp/hwip_calendar/)

- 全教務科目（以下、赤色は必須。単位制度は後述。以下、ハイライトは指導教員の皆様をお願いする部分です。）

- 1年次（いわゆるM1）

- ✧ **HW セミナー**：4月に合宿（2泊3日）、夏・秋にラボローテ（3人グループで各ラボ1日以上滞在）。
  - **ラボローテ**：各学生が自身のラボでホストとなり、この際に指導教員の皆様と相談が必要ですのでお願い致します。
- ✧ HW 基礎論：前期は4人の特任の4分野座学（金6限）。後期はグループワークで融合研究議論（金4限）。
- ✧ **HW 領域基礎研究**：**ラボでの専門研究**＋企業インタビュー（前後に1日ずつ講義アリ）
  - **年度末に専門研究の成績照会**をします（この点数が本科目の成績の8割に該当します）。採点方針は指導教員の皆様次第ですが、例えば、「各研究科や専攻で対応する研究科目があれば、その成績を内々で統合する（KOAN登録の無い前期科目の成績も内々でつけて年度末まで保存・統合する）」などしてご採点ください。
- ✧ **HW 創出論（後期）**：様々な分野の講師によるオムニバス講義（金2・3限、全8回）

- 2年次（M2）

- ✧ **HW 融合領域研究**：**ラボでの専門研究**＋アウトリーチ（講義1日、学内イベント1日、学外イベント1日）
  - **年度末に専門研究の成績照会**をしますので1年次同様にお答えください（同じく8割に該当します）。

- 3年次以降（D1～）

- ✧ **HW 融合領域プロジェクト研究**：何かの融合研究に参画する
- ✧ HW PI 融合領域プロジェクト研究：自身が学生融合研究経費をとりPIとして研究（Mに実施しても良い）
- ✧ HW イノベーション実践演習：参画企業が講義する座学（不定期に約9日）
- ✧ **HW インターンシップ**：国内外、どこかの企業・研究機関に行く。下の価値創造実践といずれかを必修。
  - **HW 価値創造実践**：インターンかこれかのいずれかが必修。起業・未踏・異能などの事業化活動を認める。

※ 拘束時間としてイベントが1日であっても準備期間があります。学生次第ですが、例えばイベント幹事をする場合などは時間がかります。よって自分自身のタイムマネージが求められます。

※ その他、不定期にHW教員セミナーや海外研修、OISTとの交流など、様々なイベントがあります。ほとんどが自由参加です。

- 審査・メンタリングなど

- **学生アドバイザー**：各学生に3人（指導教員・他研究科教員・参画企業）がつきます。
  - ✧ 指導教員の皆様には、**自身の学生**の他、同じ学年の他研究科の学生の**他研究科教員アドバイザー**もお願い致します。
  - ✧ **毎年2回の機会**（1回目はメンタリング、2回目は書類審査）および以下R-QE・最終試験の面接審査があります。
- **GPI スキル診断**：毎年秋ごろに指導教員の皆様に**学生を評価**していただきます。
- **Pre-QE**：1年次の12月ごろに面接試験があります。選抜委員会が担当します。
- **R-QE**：3年次の1月ごろに面接試験があります。学生アドバイザーの皆様に**審査員**を御担当いただきます。
- **最終試験**：5年次の1月ごろに公聴会があります。学生アドバイザーの皆様に**主査・副査**を御担当いただきます。

- サポート（各年度の予算状況によります）

- HW履修生が著者である**論文等における謝辞**については、上記、内部ページの「謝辞の書き方」をご覧ください。
- **活動支援金**：年度ごとにラボ単位で支援金があります。融合や専門研究に必要な物、国内学会出張などに使用ください。
- 学生融合研究経費：学生がPIとなり進める融合研究の単年度グラント。年度末に翌年度の研究を審査します。
- 海外短期渡航：海外インターンの下見としてのラボ訪問や国際会議参加をサポートします。
- 英語クラス：外部講師による英語クラスを提供します。年度ごとですが、基本的には後期の金5限です。
- 融合ラボ：生命系実験・解析をサポートします。実験機器使用や測定依頼・解析依頼を受け付けています。
- 履修生主体イベント：履修生が考案するイベントをサポートします。
- オフィスアワー・学位相談窓口：普段の相談、学位要件の相談などを受け付けています。
- **奨励金（以下にご注意ください）**：PreQEまで月10万。その後20万。補助金による奨励金制度は平成30年度までの予定。
  - ✧ 受給期間中、アルバイト等による報酬受給は基本的に認められていません（TAとRAは限られた条件で報酬受給可能ですが、チューターや学内アルバイトは、TAやRAとはみなされません）。奨励金受給者の受給資格については、ラボでもご留意いただきますようお願いいたします。詳細は、以下のページをご参照ください。
    - <http://www.humanware.osaka-u.ac.jp/support/financial-aid/>
  - ✧ 就職等でプログラムを継続しない意向を表明した場合は、奨励金を停止する必要がありますのですぐにお知らせください。

- 不明点や改善点など、何かありましたらご連絡いただければ幸いです。いつもご協力いただきありがとうございます。

- [hosoda@humanware.osaka-u.ac.jp](mailto:hosoda@humanware.osaka-u.ac.jp)（教務委員長 細田 一史。全体を考慮して改善に尽くします。）